

◎日本財託、高齢入居者の熱中症対策強化

日本財託は、同社が賃貸管理を行い、高齢者が入居する賃貸マンションで熱中症対策のサポートを強化した。熱中症患者の多くが高齢者であることを踏まえ、夏季は通常の見守り活動に加え、エアコンなど空調設備の点検を訪問時や電話連絡時に行う。同社の管理物件のうち、65歳以上が入居するのは227人と全体の1・4%。これまでも70歳以上の入居者に対し、毎月1回の電話連絡や連絡がつかない場合は直接訪問や家族への連絡を行ってきた。これに加え、暑さが厳しい時期は、入居者と接触する際、エアコンなど空調設備の使用方法がわからない高齢者向けに機器の使用方法をレクチャーするほか、機器の不具合にも対応する。